

平成 31 年 4 月 30 日現在

機関番号：38001

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17462

研究課題名（和文）多読を通じた“アクティブ・リーディング”が導く自律した英語学習者の養成

研究課題名（英文）Developing autonomous English learners through extensive reading program

研究代表者

阿嘉 奈月（Aka, Natsuki）

沖縄国際大学・総合文化学部・講師

研究者番号：10736656

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は高専1年生を対象に1年間の多読指導により文法・語彙力・読解力を伸ばすことが可能か否かについて検証したものである。その結果、参加者は年間を通して10万語程度の多読活動を行い文法・語彙力・読解力を改善することができた。これらの結果より、多読用図書を通してこれまで学んだ文法事項や語彙知識の活用を能動的に行う機会が多く、そのことが学習者の言語知識をさらに定着させたのだと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は高専1年生が年間を通して平均10万語（検定教科書20冊分）程度の易しい英文（i minus 1）を能動的に読むことで、英語力向上することを外部試験で明らかにした。多読を通して、学習者はこれまで曖昧だった文法事項や語彙知識を改善することができたと考えられる。ただし、具体的に多読を通してどのような技能が改善されて英語力に結びついたのか証明されていないので、今後も研究を継続していく予定である。

研究成果の概要（英文）：The present study investigated the effects of extensive reading on developing the language knowledge and reading abilities of high school learners of English as a foreign language (EFL) over the course of one school year. Participants were divided into control (n = 205) and experimental groups (n = 200), with the former receiving regular grammar instruction and the latter receiving extensive reading instruction. The results showed that the scores of the middle- and lower-proficiency groups increased dramatically compared to the higher-proficiency group. These findings suggest that the participants activated the knowledge they had learned in junior high school through the one-year extensive reading course, resulting in the improvement of their language knowledge and reading abilities.

研究分野：英語教育学

キーワード：多読 読みの流暢性 高校生 長期研究 extensive reading reading fluency high school learners longitudinal studies

1. 研究開始当初の背景

本研究は、①どのくらいの期間でアクティブなリーディング活動である多読の効果が高専生の英語力に反映されるのか、また、②それは学習者の習熟度レベルにより差があるのかについて長期研究を行うものである。研究に至った経緯としては、申請者の研究で多読を好意的に捉えている学習者が多いことが明らかになったが、それが直接英語力につながっているのか不明であった。Day & Bamford (1998)のブックストラップ仮説によれば、「読めることで自信につながり、それが楽しみに変わり、英語力へつながる」とされている。高校生レベルの英語学習者にも同じようなことが言えるのかについて研究を行う。

2. 研究の目的

英語多読指導は多方面で効果的であることが報告されている。英語力向上に関しては、ある一定の「潜伏期間」のようなものが存在し、多読の効果が反映されるまでにある程度の時間が要することが指摘されている。しかし、これまでの研究は半期間の研究がほとんどで、1年以上かけて研究したものは少ない。また、大学生を対象とした研究はこれまで多くなされてきているが、高校生を対象とした研究は比較的少ない(Nakanishi, 2015)。さらに、多読は効果的であると言われているが、多くの文献では統制群が含まれないまま、多読が効果的であると結論づけられている。上述した課題点を改善して研究を進めることで、多読本来の効果を見ることができ、さらに、易しいインプットに触れる意義について教育的示唆を生み出すことができる。

3. 研究の方法

(1) 参加者

高専1年生を対象に実験を行なった。文法指導を受講した統制群と多読指導を受講した実験群に分けた。両群の違いは、文法指導を受講したか、多読指導を受講したかということである。実験群は授業内外の多読を通して、年間平均115,269語(前期に平均49,409語・後期65,860語)を読んだ。

(2) 実験材料

英語運用能力評価協会(ELPA)が作成するBACE試験を使用する。この試験は、中学校までの既習事項で構成された、総合的な言語能力を測定する外部試験で、リスニング(12項目)、文法・語彙(16項目)、読解(12項目)で構成されている。採用した理由は、学生が多読活動中に触れる英語は自分のレベルよりも易しい英文に触れるので、中学校で学んだ文法事項や語彙に出くわしている可能性が高い。また、本研究では高専1年生を対象にした研究なので、中学校で学んだ事項をテストする方が妥当であると考えたからである。本研究は、多読についての研究なので「語彙・文法」(100)と「読解」(100)の部門のみをデータのみを分析する。

4. 研究成果

(1) 研究成果(英語力向上に関する研究成果)

事前テストの各部門に統計的有意差は見られなかった(語彙・文法力: $t(403)=1.24, p<.21$, 読解力: $t(403)=.08, p<.94$)。一方、事後テストの結果(表1)には統計的有意差が見られた。つまり、1年間の多読の効果が認められたことを強く示唆している。表1の効果量より、参加者数による影響(第2種の誤り)もないと言える。次に、被験者全員に多読の効果が見られたのかを分析する。

表1. 統制群・実験群の事後テストの結果

	統制群 ($n=205$)		実験群 ($n=200$)		$t(403)$		Cohen's d
	Mean	SD	Mean	SD	t	p	
語彙・文法	54.72	12.63	63.85	14.01	6.89	.000***	.68
読解	52.29	15.11	61.78	16.28	6.08	.000***	.60

Note. *** $p<.001$, 効果量 d の基準: $d=0.2$ (効果量小), $d=0.5$ (効果量中), $d=0.8$ (効果量大)

表2. 上位群の事前・事後テストの平均値比較

	事前テスト		事後テスト				Cohen's d
	Mean	SD	Mean	SD	t	p	
語彙・文法($n=84$)	66.92	6.62	70.64	12.82	-1.20	.007***	.36
読解($n=41$)	67.46	6.79	67.80	14.49	-.14	.89 n.s.	.03

表 3. 中位群の事前・事後テストの平均値比較

	事前テスト		事後テスト				Cohen's <i>d</i>
	Mean	SD	Mean	SD	<i>t</i>	<i>p</i>	
語彙・文法(<i>n</i> =56)	54.79	2.01	62.18	13.90	-4.03	.000***	.74
読解(<i>n</i> =78)	53.24	2.50	61.17	18.22	-3.84	.000***	.61

表 4. 下位群の事前・事後テストの平均値比較

	事前テスト		事後テスト				Cohen's <i>d</i>
	Mean	SD	Mean	SD	<i>t</i>	<i>p</i>	
語彙・文法(<i>n</i> =60)	44.33	4.90	55.90	10.87	-7.96	.000***	1.37
読解(<i>n</i> =81)	49.88	5.19	61.15	16.16	-6.74	.000***	.94

Note. ****p*<.001, 効果量 *d* の基準: *d*=0.2(効果量小), *d*=0.5(効果量中), *d*=0.8(効果量大)

「語彙・文法」と「読解」の点数を基準にして、実験群を 3 グループに分け、事前・事後テストの結果について分析を行った。群分けは、平均値 $\pm 0.5 \times$ 標準偏差を使い、3 グループに分けた。表 2, 3, 4 はそれぞれの群(上位群・中位群・下位群)の *t* 検定の結果を示している。分析の結果、上位群の「読解」以外の全ての平均値において有意差が見られ、特に、中位群と下位群の「語彙・文法」「読解」部門の平均値に大きな有意差が見られた。金谷他(1991)は、テストの点数において、統制群と実験群の間に有意差が見られるのは半年以降であると述べているが、本研究では、中位群と下位群のみにそのことが認められた。中位群と下位群の伸び率が上位群よりも比較的大きかった理由は、多読用図書を通して、中位群と下位群の方がこれまで学んだ文法事項や語彙知識の活用を能動的に行う機会が多く、そのことが学習者の知識をさらに定着させたのだと考えられる。

上述した結果と考察を踏まえて、2 つの課題点を挙げる。第 1 に中位群と下位群の伸び率が大きかったことに関しては、易しい英文に多く触れることで、学んだ知識を活性化させ外部試験の点数に反映されたと結論付けたが、そのことを立証する更なる研究が必要である。第 2 に事前・事後テストの間に、どのようなスキルが多読により習得され、試験の点数に反映されたのかについても、今後、研究していく余地がある。上位群に関しては、試験の点数には反映されない結果になったが、それでは測定することができない読みの速度や語彙認知の速さなどの低次レベル処理能力が改善された可能性も否定はできない。試験の点数に反映されるまでの過程を、今後研究していく必要がある。

本研究と他研究との違いは、①被験者数がこれまでの研究と比較して多く、一般化できるデータ数であること、②高校生を対象としたデータであること、③1 年間かけた長期研究であること、純粋な多読の効果を見るために、統制群を含めて研究を行なっていることである。これまで多読の研究は多くされてきているが、実験デザインに課題があり純粋な多読の効果が把握できない論文も多くある。その課題点を踏まえて研究ができたと考える。課題点も浮き彫りになったので、その課題点を踏まえて今後の研究に生かしていく。

(2) 研究成果（教育実践に関する研究成果）

上述した多読による英語力向上の有無について研究を行なうことが、本研究の主な目的であった。しかし課題点がいくつか出たので、追加研究も行った。多量のインプットを効率よく与えるために、音声を活用した読みのトレーニングを行い、音声有無の効果についても研究を進めた。上位群に関しては音声の有無にかかわらず、効率よく読むことができることが明らかになった。逆に音声があると読みの妨害になる可能性が示唆された。一方で下位グループは音声がないと読みづらいという意見が挙げられた。初級レベルの学習者の場合、音声を活用することで形式と意味の関係をより深くすることができ、学習者が認知できる単語を増やすことができる可能性がある。継続した研究を進めていく必要がある。また、多読により文法語彙力・読解力が伸びたことも明らかになったが、どのような英文に触れて、文法及び語彙力が伸びたのかが不透明であった。そのため、ある特定の文法事項に焦点を当てて、多読指導により、1 つ文法事項の改善について研究を行なっている。

5. 主な発表論文など

【雑誌論文】(計 2 件)

- (1) Aka, N. (2019). Reading performance of Japanese high school learners following a one-year extensive reading program. *Reading in a Foreign Language*, 31(1), 1-18. [査読あり]
- (2) 阿嘉奈月・焼山廣志(2016).「図書館を活用したアクティブ・ラーニング実践例—英語と文学のコラボレーションを通して—」 *日本高専学会誌*, 22(2), 25-30. [査読なし]

【学会発表】(計 6 件)

- (1) Aka, N. “Do different types of texts affect learners’ reading comprehension?” *Lexical Studies Research Network Conference*. Waterfront Museum, Swansea, U.K. March 6th, 2018.
- (2) 阿嘉奈月.「多読指導における語彙・文法及び読解力の伸長について」 *沖縄英語教育学会*. 2018 年 2 月 24 日, 沖縄キリスト教学院大学.
- (3) 阿嘉奈月.「流暢性を高めるリーディング指導の実践例」 *沖縄英語教育学会*. 2018 年 2 月 24 日, 沖縄キリスト教学院大学. (ポスター発表)
- (4) 阿嘉奈月.「音声ありとなしの読み方で読解力が異なるか？」 *九州英語教育学会, 沖縄研究大会*, 2017 年 12 月 2 日, 沖縄国際大学.
- (5) Aka, N. “Effects of reading while listening and reading only on reading comprehension of Japanese engineering EFL learners.” *Extensive Reading World Congress*. Tokyo Gakuen University, Tokyo, Japan. August 5th, 2017.
- (6) 阿嘉奈月.「高専における多読指導効果の検証—リーディング力向上の可能性について—」 *全国英語教育学会, 埼玉県大会*. 2016 年 8 月 20 日.

【その他, (ワークショップ, ディスカッションリーダー)】(計 3 件)

- (1) Aka, N. “Does extensive reading improve reading rate while maintaining reading comprehension?” *Fukuoka English Education Research Circle*. Kurume University. December 16th, 2017.
- (2) Aka, N. “Does reading while listening help beginner learners acquire vocabulary?” *Fukuoka English Education Research Circle*. Kurume University. April 22nd, 2017.
- (3) Aka, N. “Does repeated reading method improve learners’ reading comprehension?” *Fukuoka English Education Research Circle*. Kurume University. May 28th, 2016.

【その他, (教材・発表予稿集など)】

- (1) Aka, N. (2018). “Extensive Reading Book Record 2018” 大洋印刷.
- (2) Aka, N. (2017). “Effects of reading while listening and reading only on reading comprehension of Japanese engineering EFL learners” *The 4th World Congress on Extensive Reading, Pathways to Progress*, p. 22.
- (3) 阿嘉奈月(2016).「高専における多読指導効果の検証—英語リーディング力向上の可能性について—」 *第42回埼玉研究大会発表予稿集* 42, 20-21.

6. 研究組織【研究協力者】

研究協力者氏名：神本 忠光（熊本学園大学 教授）

ローマ字氏名：Tadamitsu KAMIMOTO